

< 海外情勢 >

## 「証明されたトランプ大統領の完全無罪を証明」

### ロシア・ゲート問題とは一体、何だったのか？

藤井 巖 喜（国際政治学者）

「**ロシア・ゲート問題**」を捜査していたモラー特別検察官は3月中旬、その捜査を終了し、最終的なレポートをウィリアム・バー司法長官に提出した。その結果、明らかになったのは、「**2016年の米大統領選挙において、トランプ陣営とロシア政府の間には、何らの共謀関係もなかった**」という明白な結論である。モラー特別検察官の報告書は次のように結論づけている。

「**トランプ陣営、あるいはそれに関係する人物が、2016年のアメリカ大統領選挙に影響を及ぼそうとするロシアと共謀、あるいは協力した事実は発見できなかった**」。

誠に明快な結論である。モラー・レポート自体は未だ公開されていないが、数週間後には公表されることになるだろう。

モラー特別検察官のレポートに関しては、バー司法長官がそれを要約した書簡を米議会指導部に3月24日に送付した。これは4ページのみでの完結なものであるが、モラー・レポートの要点をあますことなく言い尽くしている。

その内容が、トランプ大統領は全くの白というものであった。

このロシア・ゲート事件に関しては、モラー特別検察官の指導で徹底した捜査が行われた。約2年の歳月をかけて、19人の法律家と40名のFBI捜査官を導入した。そしてこの間、2,800通の召喚状と500件近い捜査令状が出され、約500人の証人からの事情聴取を行なった。

その結果が「**トランプ陣営とロシア政府が共謀した事実は全く発見できなかった**」というものである。つまり2016年の米大統領選挙の盛んになる夏ごろから繰り返し、アメリカの主要メディアが報道してきたトランプ陣営とロシアとの共謀関係なるものは、全くのたまたまであり…幻想であり…でっち上げであり…捏造だったのである。日本のメディアもアメリカの主要メディアの悪乗りを増幅させ、あたかもトランプとロシアとの共謀関係は当然のことであるかのような悪質な情報操作を行ってきた。

何ら確たる証拠は存在しないものの、情報源の不明な噂話や、状況証拠的なものを盛んに流布し、トランプは黒であるとの巧みな印象操作を行ってきた。アメリカでは CNN・NYタイムス・ワシントンポストに代表されるリベラルなメディアが、当初から「**トランプは有罪であるに決まっている**」という前提で情報の捏造と流布を行ってきた。日本のマスコミはこれを何ら検証することもせず、その印象操作や捏造情報をそのままに垂れ流しにしてきた。

アメリカのマスコミも日本のマスコミも如何に嘘だらけで信用できないかを今回、この「**ロシア・ゲート事件**」を通じて改めて痛感させられた。

ところが、これでアメリカのマスコミや日本のマスコミが反省しているかと言えば、全くそうではない。相変わらず「**トランプの白は完全に証明されたわけではない**」「**隠された情報があるのではないか**」といったニュアンスで自分たちの犯した致命的なミスを隠蔽し続けている。あるいは全く違った話題に焦点をあて、トランプのロシア・ゲート疑惑などについては、自分たちは全く報道してこなかったような振りをしている。要するにマスコミが犯した決定的な過ちと罪に関しては全く反省していないのだ。

筆者はこの問題については、はじめから「**トランプは白である**」と推測してきた。それはアメリカのリベラルなメディアや政治家たちが、何としても保守派のトランプの大統領当選を阻みたいという事実を知っていたからである。

火のないところに煙を立ててトランプ候補を潰し、ヒラリー・クリントンを大統領に当選させる。その為の謀略であろうと、筆者は早い段階から洞察してきた。そして公開情報を用いて、その後もこの事件の展開をフォローし、その本質を分析してきた。

当初の推論通りトランプは全く白であり、トランプを罪に陥れた側こそ違法行為を繰り返していた事実が明らかになった。しかし、日本のマスコミでは筆者のような論調は全くと行っていい程、取り上げられなかったし日本のマスコミは全く反省の色を見せていない。マスコミの恣意的な情報操作は、今日現在も継続しているのだ。

## トランプの司法妨害も白

単にロシア・ゲートなるものが存在しなかっただけではない。

トランプ大統領による司法妨害というものも、存在しなかったことが今回のモラー特別検察官の捜査によって明らかになったのだ。この件に関しては、モラー・レポートは正確にいうと「**有罪とも無罪とも断定できない**」と曖昧な結論である。しかしこの件に関して、パー司法長官とローゼンスタイン副

司法長官が話し合ったところ、両者の意見は「大統領を起訴するにたる十分な証拠は存在しない」という結論となった。即ち、無罪である。司法省の客観的な基準によって判断したところ、司法妨害を証明するにたる十分な証拠は発見できなかったという結論に至ったのである。

これは通常の意味では、「被疑者は白である」ということになる。

検察官が捜査を打ち切り、「起訴するにたる十分な証拠が集まらなかった」と結論づけたとすれば、被疑者は常識的な言葉で言えば、無罪であるということになる。トランプ大統領のロシアとの共謀関係はなかったし、それに関する司法妨害もしていなかったということである。

例えば、ある一人の人間が殺人事件に関する被疑者となったとしよう。この殺人事件に関して2年間、徹底的に捜査し、500人以上の証人の聴取を行ない、その結果、この被疑者を起訴するに至る決定的な証拠が見つからなかった。であるとすれば常識的な意味では、この被疑者の無罪が証明されたことになる。例え、検察が有罪にするにたる十分な証拠が存在すると判断して被疑者を起訴した場合でも、裁判の結果は無罪になることがある。

まして起訴前の段階で、検察官が起訴自体を諦めたとすれば、それは何よりも無罪の証拠となる。しかも司法妨害の件に関して、判断を下した2人のうちローゼンスタイン副司法長官は、明らかに反トランプ派の人物であり、モラー特別検察官の反トランプ謀略に積極的に協力した人物であることが知られている。そのローゼンスタイン副司法長官ですら、トランプ不起訴に同意をせざるを得なかったのである。

## 反大統領クーデターとしてのロシア・ゲート

現在の時点から振り返ると、このロシア・ゲート問題とは、アメリカのリベラル陣営が仕掛けた反トランプ謀略であった。先ずトランプを当選させないように、そして当選後は合法的に選ばれた大統領を非合法な手段で、引き摺り降ろそうとする謀略だったのである。

そしてこの謀略には多くの違法行為が含まれている。謀略を仕組んだ当事者は3者である。第1にまずヒラリー選対及びオバマ政権、第2に司法省とその傘下のFBI、第3にメイン・ストリーム・メディアと呼ばれるアメリカのリベラルなメディアである。

マスコミの反トランプ報道は、意図的なものであり非倫理的なものではあったが、違法行為とまでは言えないであろう。しかしヒラリー選対及びオバマ政権が司法省と組んで行なった謀略に関しては、明らかに法律違反である。司法省という最も中立であるべき政府機関が、オバマ民主党とヒラリー・クリントン陣営の為に、違法に選挙に介入していたのである。

しかもトランプ当選後は、その違法行為を続行させ、合法的に選ばれた大統領を権力の座から引き摺り降ろそうとしていたのである。

これが謀略でなくして何であろうか。アメリカのデモクラシーと法治主義が、存亡の危機に瀕していたのである。ウォーターゲート事件では、ニクソン大統領が上からのクーデターを敢行しようとし、これに失敗した。

アメリカのデモクラシーは守られた。しかし今回のロシア・ゲート事件においては、合法的に選ばれた大統領を非合法な手段で、トランプを政府機関の官僚や民主党の政治家たちが権力の座から引き摺り降ろそうとしていたのだ。非合法的な反大統領クーデターそのものである。

その意味において、これはウォーターゲート事件以上の大事件であり、アメリカ政治史上、最大のスキャンダルである。

## 期待される今後の展開

2018年の年末まで、幸いなことにアメリカ上下両院の多数派は共和党であった。そのため共和党主導の議会が、様々な委員会の調査能力を生かして、モラー特別検察官の捜査の非合法性を批判してきた。議会はその調査能力を十分に生かし、数多くの証人を公聴会に呼び出し、独自の調査を行なった。

その結果、モラー特別検察官のレポートを待つまでもなく、トランプ大統領は無罪であり、ロシア・ゲート疑惑は反対党派によってでっち上げられた謀略であるという事実が明らかになった。ここまでやられてしまっただけでは、もうモラー特別検察官もなすすべがないということで、3月中旬に捜査のレポートを提出して「**ロシア・ゲート捜査は完全に終了した**」のであった。

しかし事がこれで終わったわけではない。何故、アメリカの法治主義そのものを否定したこのような大謀略が行われていたのかが、これから解明されなければならない。トランプ大統領が任命したバー司法長官のもとで、このロシア・ゲート疑惑の全体像が明らかにされなければならない。

そうなれば、今までトランプを追求する側であった**モラー特別検察官…コミー元 FBI 長官…ヒラリー・クリントン大統領候補**は、その罪を問われ起訴される側に回ることになる。モラー氏などはそれが明らかになることを恐れて捜査を急遽終了させ、首都ワシントンから逃げ去ろうとしている。

ところが、当然のことながらトランプ支持者や共和党は、彼らの犯した罪を見逃そうとはしていない。バー司法長官がやるべき仕事をすれば、やがてトランプを罪に陥れようとしていた民主党や民主党支持の官僚たちの罪の全貌が明らかになる事だろう。

筆者とすれば、今後のトランプ陣営の反撃が楽しみである。 ■